未来に残そう！きれいな川

―生き物が暮らしやすい水はみんなでつくる―

わたしたちの命をはぐくむ豊かな川。流れに足を踏み入れてみると、今まで気づかなかった多くの生き物に出会えます。金目川の「生きもの観察会」に参加した高石さんと村居さんは、きれいな川を残すことの大切さを感じました。

高石　玲

みんなの努力できれいな川に

「身近な川の魅力を大勢の人に知ってもらおう」と、東海大学の先生や大学生、地域の人たちが開いている金目川の生きもの観察会に参加しました。今回の観察会には神奈川県内の小学生など約130人が集まりました。きれいな川にしかいないウナギやアユなどもとれてびっくり。バケツや水槽の中で観察した後は、元の川に放してあげました。

うまくとれるかな

太陽の光できらきら輝く金目川は、地域の人たちが河原のごみを集めたり川底の掃除をしたりして、多くの魚が泳ぎ回るきれいな川になりました。汚れていた川をよみがえらせようと、地元の人たちが声をかけあって活動を始めた「金目川水系流域ネットワーク」。代表の柳川三郎さんは「川はみんなの心と同じ。川をきれいにすることは、人の心をきれいにすることなんだ」と、優しい笑顔で話してくれました。

うわーっ、大きなウナギ

大山からはじまり、相模湾にそそぐ約21キロの金目川には、鈴川や渋田川、水無川など多くの支流が流れています。たくさんの川の恵を海まで運ぶ金目川は、田んぼの用水などにも利用され、流域で暮らす人々の生活の支えになっています。

わたしも川を大切にします

柳川さんの話では、今はきれいな金目川も昔はすごく汚かったそうです。地元の人たちの努力できれいな姿を取り戻しました。平塚市外からもたくさんの人が生きものの観察に訪れる川がわたしたちの身近にあることは、みんなに自慢できることです。

もっともっとたくさんの魚が生き生きと暮らせる川になるように、これからもずっときれいな川を守っていきたいと思いました。

みんなへのメッセージ

一人一人が努力することによって川はきれいになっていきます。みんなもそれを意識して生活しましょう。

村居　篤哉

アユが泳ぐ川はきれいな川

生きもの観察会では、アユやエビやカニの仲間など14種類の生きものを捕まえました。捕まえた魚は河原につくった「ミニ水族館」の水槽に集め、色や形、泳ぐ様子などを観察しました。

難しいなあ

魚やカニなどを捕まえるには、ちょっとしたコツが必要です。ひざくらいの深さまで川の中に入り、流れの先に網を構えて川底の石を一気に蹴飛ばします。石と一緒に舞い上がった土の〝煙幕〟で逃げ道がわからなくなった魚が網の中に入ってきたところをすくい上げます。僕は一度にたくさんの魚を捕まえられる投網にも挑戦しました。

えいっ！

何種類くらいの魚がいるんですか？

東海大学の北野忠先生は「金目川の上流はとてもきれいで、たくさんの魚がすんでいます。その多くは川と海を行き来する魚です」と説明してくれました。金目川で体長25センチを超すアユが確認されたこともあります。きれいな水にしかすめないアユがたくさん確認されたときは感動したそうです。

上から見ていると水が流れているだけのようにしか見えない川も、中に入って泳いでいる魚を見ると、汚したくなくなります。洗剤の使う量を減らせば、今よりもっときれいな川になって、魚もたくさん増えると思います。

「川に入って魚を観察して、川の変化に興味を持ってほしい」と話す北野先生の言葉を聞き、きれいな川をいつまでも大切にしていきたいと思いました。

大きなカニでしょ

みんなへのメッセージ

川に入って魚をとったりして、身近にあるきれいな川を大切にする気持ちをもってほしいと思います。